

平成28年度第4回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会

平成29年3月29日（水）

【事務局（黒川）】 皆さん、こんにちは。事務局、地域医療課の黒川でございます。よろしくお願ひします。

定刻になりましたので、ただいまから平成28年度第4回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会を開催させていただきます。

委員の皆様方には、年度末の大変お忙しいところをご出席いただきましてまことにありがとうございます。

それでは、会議に先立ちまして新しい委員の方をご紹介させていただきます。

桑名商工会議所会頭であります中澤康哉様でございます。中澤様におかれましては、昨年11月1日に桑名商工会議所の会頭職にご就任され、同日付でこの評価委員会をお引き受けいただきました。中澤様、ありがとうございます。

それでは、一言ご挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

【中澤委員】 改めましてこんにちは。ただいまご紹介いただきました桑名商工会議所の会頭の中澤でございます。

先ほどご紹介いただきましたように、今年の11月1日に、横井前会頭から会頭職を引き継ぎました。本業は桑名信用金庫の理事長を9年務めております。私も桑名市民として待望の医療センターができるということでほんとうに楽しみにしております。また、私どもの会員の商工業者におきまして、市民センターというんですか、市民病院、医療センターというんですか、ほんとうに期待しておりますので、ぜひともよろしくお願ひしたい。こういうメンバーに、私、ほんとうに知識もないのに参加させていただきます。皆様方のお知恵をいただきながら頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくご鞭撻をいただきますようお願い申し上げまして、簡単でございますが冒頭のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

【事務局（黒川）】 どうもありがとうございました。

なお、本日、伊佐治委員につきましては、所用のために欠席というご連絡をいただいておりますのでよろしくお願ひいたします。

それでは、会議に入ります前に資料の確認をさせていただきます。

座って失礼をいたします。

本日、使用いたします資料でございますが、平成28年度第4回桑名市総合医療センター評価委員会次第、そして、資料1として総合医療センター平成29年度計画、資料2として新病院整備事業の進捗状況について、資料3として平成29年度評価委員会スケジュールについて、そして、委員名簿、その後ろに席次表でございます。資料のほうはよろしかったでしょうか。

それでは、次の本日の議事進行につきまして説明をさせていただきます。

次第のほうにありますとおり、本日の議事につきましては、まず、桑名市総合医療センターの平成29年度計画について総合医療センターよりご説明をさせていただきます。次に、新病院整備事業の工事の進捗状況につきましてご報告させていただきます。そして、最後に、平成29年度の評価委員会のスケジュールについてご連絡をさせていただきたいと思っております。

また、この委員会終了後になりますが、委員の皆様にはお時間をいただきまして、現在、建設しております新病院の病室モデルルームの見学をしていただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、本日の議事に入りたいと思っておりますが、ここからは豊田委員長に会議の進行をお願いしたいと思います。豊田委員長、よろしく願いいたします。

【豊田委員長】 それでは、本日の会議の司会をさせていただきますけれども、今日はモデルルームの見学をさせていただくということで、新病院の完成まで残り1年を切りまして、新病院の開院もあと1年とちょっとということですかね。委員の皆さんも、中澤委員という新しい委員が参加していただきましたので、ぜひともよろしく願いしたいと思います。思っております。

私も、やはり平成21年から地方独立行政法人化以来、委員長を務めさせてもらっておりますけれども、その間、民間病院との再編統合と、それから、これも大変困難をきわめたわけですが、その後も、それがまとまった後も新病院の建設工事でまた大変な思いをさせていただいて、そういう過程をずっと見させてもらってきておりましたので、本日、モデルルームの見学をさせていただくというのは、ほんとうに私にとりましても感慨深いものがございます。そんなことで、どうぞよろしく願いしたいと思います。

それでは、早速でございますが、本日の議事に入ります。

まず、議事1、総合医療センターの平成29年度計画についてということでございます。

それでは、説明をお願いいたします。

どうぞ。

【北野(経営戦略室室長)】 では、管理部、北野のほうより説明をさせていただきます。

配付いたしました資料のうち資料1をお願いいたします。

まず、1ページ目から順次説明させていただきます。

小項目の(1)重点的に取り組む医療の実施につきまして、まず、救急搬送数の目標値を設定しております。平成29年度につきましては、救急搬送患者の積極的な受け入れを継続することとしており、法人全体の受け入れ件数は3,580人を計画値としております。

続いて、その下、周産期医療に関する計画値としましては、分娩件数280件、NICU新生児特定集中治療室の入院件数35件、これらを計画値としております。

次に、その下、診療実績値としまして、疾患別患者数としまして、各病院のがん、脳血管障害、循環器疾患、消化器疾患の患者数を計画として掲げております。こちらは、西、南医療センターについてはほぼ前年度並みの数値、東医療センターについてはほぼ前年度1割増しの数値を掲げております。

2ページをお願いいたします。

診療実績としまして、化学療法、SCU、PCI、これらの実績値を挙げております。先ほどの疾患別患者数と同様に、西、南医療センターについてはほぼ前年度と同様の計画値、東医療センターでは前年度比1割増しの数値としております。

次に、その下、手術室の実績につきまして、来年度の計画値は、法人全体で2,270件、そのうち腹腔鏡と鏡視下の手術を320件の計画値にしております。

次に、多職種によるチーム医療の活動を推進することとし、病院によって計画値を変えておりますけれども、南医療センターについては栄養サポートチーム、西、東医療センターについては糖尿病透析予防チームの活動件数を計画値として掲げております。

次に、3ページ、こちらは地域医療連携の推進としまして、各病院の紹介率及び逆紹介率の向上を図ることとしております。法人全体では、来年度の紹介率を40%、逆紹介率を60%としております。また、他の医療機関との機能分担と連携をさらに強化することとしまして、他の医療機関からの検査受託、紹介件数及び地域連携パスの利用数についてもそれぞれ計画値を設定いたしております。

次、4ページをお願いいたします。

地域包括ケアシステムの構築に向けて、在宅患者の急変時には受け入れられるよう努め

急性期病院として在宅医療の支援を行うこととしております。これに関する指標としまして入院患者の退院調整の件数というのを計画値として掲げております。

次に、小項目の(3)災害時及び重大な感染症の流行時等における医療協力としまして、災害や重大な感染症の発生時には、関係機関からの要請により患者の受け入れや医療従事者の派遣を行うこととしております。こちらには災害救助訓練の参加者数を挙げております。

次に、中項目2、医療水準の向上、小項目の(1)医師の確保につきましては、新病院に向けて救急科及び総合診療科等につきまして、近隣大学への医師派遣要請を継続して行うとともに、女性医師に対する就労支援を引き続き実施することといたしております。こちらには、常勤医師の確保数、平成28年度の実績値をお示ししております。

次に、小項目の(2)研修医の受け入れ及び育成につきましては、初期研修医マッチング数、こちらの実績値は、28年度、7人、計画値は、来年度11人としております。後期研修医につきましては、28年度の在籍が8人、29年度は10人を予定いたしております。

次に、(3)看護師の確保及び定着につきましては、ワーク・ライフ・バランスに配慮した働きやすい環境の整備に努め、引き続き人材の確保及び定着に努めます。常勤看護師の離職率については、28年度は3病院とも10%を下回っておりますが、引き続き、来年度についても10.0%以下を計画値として取り組んでまいります。

次に、中項目の3、患者サービスの一層の向上、小項目の(1)患者待ち時間等の改善につきまして、こちらは外来待ち時間の満足度を各病院とも60%、不満を5.0%にすることとしております。

次に、6ページ、お願いいたします。

こちらでは、患者アンケートで、入院された部屋の快適性についての結果をお示しております。病院ごとに、設備、環境等が若干異なりますので、計画値を病院ごとに若干変更いたしております。

その次に、ボランティア活動件数につきまして、今年度の実績と来年度の計画値をお示ししております。

次に、接遇面全般につきましては、患者アンケートの結果を、満足が80%、不満0%を計画値として各病院とも取り組んでまいります。その下には、各病院の投書箱の投書件数を実績値として挙げております。

7ページ、お願いいたします。

中項目の4、より安心して信頼できる質の高い医療の提供、小項目の（1）医療安全対策の徹底につきまして、こちらでは、医療安全研修会の開催数及び出席者数、法人全体での数値をお示しいたしております。

次に、院内感染対策につきましては、各病院ともに感染対策チームを設置いたしております。感染対策チームによる院内ラウンドの実施回数や他病院との合同での感染対策についてのカンファレンスの開催件数を計画値として掲げております。また、3病院合同での研修会を定期的に開催することにより感染対策にかかわる知識や情報を共有し、職員の感染予防知識や技術の向上に取り組んでまいります。

次に、小項目の（2）信頼される医療の提供としまして、インフォームド・コンセントを徹底するとともに、セカンドオピニオン等、エビデンスに基づいた医療情報を提供することとしています。こちらには、患者アンケートの、医師の病気、手術に対する説明についての回答を計画値として掲げております。満足が90%、不満を0%として計画値としております。

次に、8ページをお願いいたします。

診療録等、個人情報の保護並びに情報開示につきましては、個人情報保護規程に基づいて適切に行います。こちらには、各病院の開示実績を参考値としてお示しいたしております。

次に、小項目の（3）施設設備の整備及び更新については、必要性や費用対効果を勘案して計画的に整備を進めることとしています。

次に、小項目の（4）市民への保健医療情報の発信及び普及啓発等につきましては、市民公開講座や各種広報活動、患者教室等の計画値を掲載しております。

次に、大項目の第2、業務運営や財務管理の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置について説明させていただきます。

まず、地方独立行政法人としての運営管理体制の確立につきましては、予算の執行状況について達成率を定期的に報告する等、適切な予算管理を行い、法人の財務内容の改善に取り組んでまいります。

9ページには、平成29年度の減価償却前利益及び経常収支比率の計画値をお示しいたしております。29年度の計画値は、1カ月当たりの減価償却前利益がマイナスの5,032万9,266円、経常収支比率については、法人全体で90.4%といたしております。

次に、中項目の2、効率的かつ効果的な業務運営につきまして、小項目の(1)適切かつ弾力的な人員配置につきましては、医師をはじめとする職員を適切かつ弾力的に配置することとしています。

次に、小項目の(2)職員の職務能力の向上につきましては、研修等への参加と職務上必要な資格取得に対する支援を継続することとしております。各病院の専門医及び研修、認定施設数、専門、認定看護師数については、こちらの表のとおりとなっております。来年度、皮膚排せつケア及び脳卒中リハビリテーションの認定看護師が各1名ずつ増える計画をしております。

10ページをお願いいたします。

事務部門につきましては、研修等を充実させることで事務部門の職務能力の向上に取り組んでまいります。こちらには、2月1日現在での各病院での事務職員数を参考値としてお示しいたしております。

次に、11ページ、小項目の(3)職員の就労環境の整備につきまして、人事評価制度の適切な運用を行います。また、時間外勤務の削減や休暇の取得の推進等、就労環境の整備を継続いたします。

次に、小項目の(4)業務改善に取り組む組織風土の醸成、こちらについても引き続き取り組むこととしております。

次に、小項目の(5)収入の確保につきましては、アからキまでの合計7項目を挙げております。

まず、(ア)の医師及び看護師の充実ですが、具体的な内容につきましては4ページ、5ページの内容と重複いたしますので割愛させていただきます。

次に、12ページ、お願いいたします。

(イ)の7対1入院基本料の維持につきましては、算定要件を維持し医業収益の確保に努めることとしております。

(ウ)DPC制度の円滑な運用及びデータの有効活用、こちらについても継続して取り組んでまいります。

次に、(エ)入院患者数、病床利用率、平均在院日数及び外来患者数の表につきまして、今年度の実績値と来年度の計画値をお示しいたしております。法人全体の延べ入院患者数については、来年度11万3,698人、病床利用率については71.1%、延べ外来患者数は25万2,243人を計画値としております。なお、病床利用率については、許可病床

数ではなく各病院の稼働病床数に基づいて算出をしております。

次に、13ページ、(オ)の高度医療機器の稼働率の向上、及び(カ)平成28年度診療報酬の改定に関する情報の迅速な収集と的確な対処、診療報酬の請求漏れや減点の防止については、継続して取り組むこととしております。こちらでは、査定減の実績値及び来年度の計画値をお示ししております。

次に、(キ)未収金の未然防止につきまして、平成28年12月31日の時点における平成27年度分までの未収金残高と、29年度に新たに発生する未収金についての計画値をお示ししております。各病院ともに未収金の未然防止及び早期回収に引き続き取り組むこととしております。

次に、小項目の(6)支出の節減につきまして、まず、(ア)の後発医薬品の採用促進につきましては、後発品の使用率70%を上限として診療報酬の加算がつくような制度になっております。現在、3病院とも既に70%を超えておりますので、来年度は80%を計画値とし、引き続き後発品の使用促進に努めてまいります。

次に、(イ)の材料費対医業収益比率につきましては、前年度に引き続き、専門コンサルタントの支援のもと、診療材料の仕入単価を下げる取り組みを実施いたします。

14ページ、お願いいたします。

こちらに材料費対医業収益比率の実績値及び計画値、その下に各病院の廃棄医薬品についても計画値を掲げております。廃棄医薬品については、実績値からおおむね1割程度削減することを計画値としております。

次に、(ウ)経費対医業収益比率については、委託内容、委託先及び委託方法等を全般的に見直すことにより、経費の削減に努めることとしております。

次に、(エ)人件費対医業収益比率については、医業収益の増収に努めるとともに、引き続き業務の効率化及び業務量の適正化に取り組み、人件費の節減に努めます。

次に、大項目の第3、予算、収支計画及び資金計画については、後ほどご説明いたします。

15ページ、お願いいたします。

大項目第4、短期借入金の限度額については、変更はございません。

大項目の第5、不要財産または不要財産となることが見込まれる財産がある場合には当該財産の処分に関する計画は、該当なしとなっております。

大項目の第6、不要財産または不要財産となることが見込まれる財産以外の重要な財産

を譲渡し、または担保に供しようとするときは、その計画、こちらには桑名西医療センターの跡地活用事業スケジュールをお示ししております。

次に、大項目の第7、剰余金の使途につきましては、前年度から特に変更はございません。

次に、大項目の第8、桑名市地方独立行政法人法施行細則第5条で定める事項としまして、地域の医療水準向上への貢献に関する計画につきましては、学生実習の受け入れ人数を計画値として記載いたしております。

次に、16ページ、お願いいたします。

医療機器の整備に関する計画については、費用対効果等を総合的に判断し、高度医療機器の整備を適切に実施することとしています。

次に、中項目の3、新病院の準備に関する計画については、部門別計画を記載しています。まず、診療部門については、小児、周産期医療をはじめとする診療機能の拡大、整備を進め、他の診療科についても、集約または補完についての検討を行うとともに、新病院での診療機能の整備に向け準備を進めます。その他、看護部門、コメディカル部門、事務部門については、新病院での業務運営に向けて機能、マニュアルの標準化や病院間の人事交流を推進いたします。

次に、小項目の(2)新病院整備については、新病院準備室及び5つの検討委員会の役割について記載しております。

17ページ、お願いいたします。

年次計画としまして、再編統合後から新病院開院までの業務スケジュール、その下に新病院整備スケジュールの表を掲載いたしております。

次に、4、法人が負担する債務の償還に関する事項としましては、法人が桑名市に対して負担する債務の元金償還を確実に行うこととしております。

次に、5、その他法人の業務運営に関し必要な事項としまして、障害者等就労施設等からの物品等の購入及び障害者の雇用の促進について記載いたしております。

19ページ、お願いいたします。

こちらからは、別表としまして、予算、収支計画、資金計画について記載いたしております。まず、19ページの予算計画について説明させていただきます。

法人合計で、平成29年度の総収入、235億2,800万円、総支出については238億8,600万円を見込んでおります。

20ページ、収支計画になります。法人合計での医業収益は89億7,500万円、運営費負担金等を含めた営業収益としては95億6,800万円を見込んでおります。医業費用は97億4,000万円、一般管理費を含んだ営業費用は100億3,900万円、これらに新病院の建物及び医療機器等にかかってくる消費税分としまして、臨時損失11億3,300万円を加え、平成29年度の純利益は法人合計でマイナス15億7,500万円と見込んでおります。

次に、21ページ、別表第3は資金計画となっています。資金収入は総額235億2,800万円、資金支出は総額238億8,600万円、次期中期目標期間への繰越金はマイナス3億5,800万円と見込んでおります。

以上をもちまして、平成29年度年度計画の説明を終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

先ほどの年度計画のご説明でございますけれども、法律上は評価委員会の意見聴取が義務づけられているものではございません。ただ、今までの、これまでの評価委員会の中で、やはり年度計画について聞いておかないと、後でまた、年度計画に基づいてどれだけ達成したかという年度評価をしないといけないわけですから、年度評価をするためには、あらかじめ年度計画も聞いておかないと年度評価も不十分なものになると、そういう判断でもって総合医療センターのほうからご説明いただいているということでございます。

それでは、先ほどご説明いただきました平成29年度の計画につきまして、委員の皆様方からご質問、あるいは確認しておきたい事項等、何でも結構ですので、もしございましたら発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。今日の評価委員会から初めて参加された中澤委員も、いろいろわからない用語とか言葉がたくさん出てきていると思うんですよ。どんなことでも結構ですので、ここをもう少し説明してほしいとか、そういうことがあればぜひお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

【中澤委員】 まず、何を言っているのかわからないですけど、収支……。

【豊田委員長】 マイクをどうぞ。

【中澤委員】 収支のところで、最後にあったんですが、今年度というか来年度、29年、マイナスなんですよ。以前にいただいた資料から見てもずっとマイナスだった。こんなことを聞くのは大変おこがましいのかもわかりませんが、この辺は、独立行政法人というのは単独なんですよ。

【豊田委員長】　　そうです。

【中澤委員】　　それは、今後は、開業したら爆発的に収益を上げないと。こういうことは大変失礼なことかも知れませんが。

【豊田委員長】　　いやいや、本来、だから、マイナスの予算というのは、一般的に一般市民の方々から見れば一体どうなっているんだという、もっともなご質問でございます。このあたり、どなたに答えていただきましょうかね。

どうぞ。

【宗近（総合医療センター理事）】　　理事の宗近でございます。

独立行政法人に変わる、桑名市総合医療センターになったときにシミュレーションを、3病院が一緒になるときから、収入、収支のバランスシートをずっと三十何年まで、平成30年、実際にはそこまで平成が続かないかもしれませんが、そこまで見込みを立てておりまして、また、後で、グラフにしたものが一番見やすいので提出いたしますけれども。平成でこのまま続いたとして平成31年度まではマイナスになる。32年度よりキャッシュで黒字に転換するという今計画で、これは28年度までは決算が出ておりまして、その決算を見ますと、大体見込んだベースと同じように来て、ちょっとそれを下回っているという状況で来ているということでございます。

【中澤委員】　　わかりました。

【豊田委員長】　　そんなことで、もちろん独立行政法人ですので黒字化を目指すわけですが、ただ、一般の民間企業でも、最初の立ち上げのときはやはりマイナスのことが多くて、何年後に黒字化をすると、いろいろあると思うんですね。本病院につきましても、ようやく来年度、新しい病院ができるということで、そして、また、現段階では3病院のままで、別々の病院で経営をやっておりますので。しかしながら、新病院の準備といえますか、医師、看護師等々の医療従事者も充実をして、そのほかのこともいろいろやっていかないといけないので、やはり現段階ではまだ赤字の予算を立てざるを得ないと、そういう状況だというふうに理解しております。

ほかに、ご質問、ご意見はございませんでしょうか。

どうぞ。

【東委員】　　今、委員長がお話しされましたように、これからはちょっと大変なんだろうなと思っておりまして。ただ、例えば、計画の中の研修医の集まりぐあいとか、あるいは、非常に需要なところなんですけど、後期研修医がこの病院にたくさんいると。後期研修

医がたくさんいるというのは、県下でも、この規模の病院として、あるいは、今こういう状況、病院が立ち上がってきているとはいえ、3病院に分かれていてかなりいろんな不便がある中で、評価すべき、スタッフとか、みんなの努力があるんだろうなと思っておりまして。これが、将来、二、三年先に芽を吹いてきっちりこの病院を支えてくれる力になるんだろうと思っておりますので、こういうところはすごく評価できるのではないかなと思っております。

ただ、収入の面はいかんともしがたい部分があるんですが、ここは目をつぶるというわけにはいきませんが、何とかこの数字を少しでも少なくするようにお願いしたいと思っております。

【豊田委員長】 どうぞ。

【竹田（総合医療センター理事長）】 後期研修医も含めまして、各診療科から医師がどれぐらい導入されているかという、大学の教授の先生方とお話をして、ある程度めどが立ちました。別紙と書いてありますが、別紙の1というやつで、水色と黄色の色のついた横のエクセルの表ですけれども、桑名市総合医療センター診療科新設及び常勤医師増員見込みという表があると思っておりますけれども、それをごらんいただきたいと思っております。

先ほどの、北野のほうからご説明いたしました医師の確保、来年度の確保の計画もございましたけれども、一応、今、私がいろいろ教授の先生方と話して、こういう形でいこうというのが、大まかな約束といたしますか、そういうことになっております。ただ、最終的には数字は多少変動するとは思いますが、一応今のところこういう見込みでして、今年の2月1日現在、3つの、東、西、南医療センターを合わせまして約90名の医師がおります。これは研修医も含めてですけれども。今年、来年度といたしますか、この4月から、新病院のオープン1年前ということで、各診療科の先生方も、そろそろ桑名に力を入れておきたいと。まして、新病院でどういう診療をやっていくかということもありますので、ある程度、準備も含めて増員しておきたいという、そういったご希望がございまして、特に、平成29年夏から秋にかけて、あるいは、今年中にかけて、水色の色の塗ってあるところが、人が増員して、医師の増員が見込まれるところでございます。上から行きますと、循環器内科とか消化器系内科とか、小児科、消化器外科、脳神経外科、婦人科、それから麻酔科とか、そのほかに、後期研修医として後期研修医もこの中に入っております。ですから、来年度、約10人ぐらいの医師が多分増員されてくることになると思っております。

来年の4月以降、新病院ができますとさらに増員もあるんですけれども、黄色く塗って

ある診療科、上から行きますと血液腫瘍内科、神経内科、総合診療科、乳腺外科、眼科と、これだけ、また常任の先生方を派遣していただけると。それから、麻酔科も増員、麻酔科だけは愛知医大から来ていただきますけれども、それ以外は三重大学から来ていただくということで、一応、新病院ができますと120人ぐらいの体制になって、ある程度、医師の数はそろふということになると思います。そうしますと、新病院で常勤の医師がいないのは皮膚科だけになりまして、皮膚科のほうは、今、教授選がこの3月、今の現教授は3月で退官されますので、その後、新しい教授が決まったら、またお願いに上がろうかと思っております。そうすると、ほとんどの診療科に常勤の医師がいるという形になりまして、医師の確保に関しては、ある程度めどが立ったという、そういう状況でございます。

【豊田委員長】 ほかに、ご質問、ご意見はございませんでしょうか。

どうぞ、木村委員。

【木村委員】 医師の増員ということで今ご説明いただいたんですが、多分、29年度から30年度の新病院に向けて増員されると思うんですが、途中から採用される医師等の人件費なんかも今の計画に入っているのかどうかということと、あと、もう一つ、私も知らなかってびっくりしたんですが、研修医の時間外手当を払ってなくて裁判で負けたので払わないといけないということがあったらしいんですが、時間外なのであらかじめ見積もるといことは不可能だと思うんですが、その辺もある程度、予想か何かで見積もって労務していくか、人件費の中に入っているのかどうか、この辺を教えていただきたいと思っております。

【豊田委員長】 どうぞ。

【松本（管理部部长）】 管理部部长の松本でございます。

今予定されている医師の増員の部分は、予想される月からの部分に関しては見込んでございますし、時間外の部分に関しては、今までもそうなんですが、実働に関して全てカウントさせていただいて支払いをさせていただいておるということですので、時間外についても相当額の予算のほうというか、金額のほうは見込ませていただいている。

【豊田委員長】 どうぞ、追加。

【竹田（総合医療センター理事長）】 研修医の時間外の件なんですけれども、研修医というのは時間外の勤務はさせてはいけないと、一応、原則はそうなっております。ただし、どうしても手術が長引いたとか、それから、患者さんの状態が悪くて長くいたという、そういうことで、どうしても診療で病院にいななければならないという事態が発生した場合には、

それは認めるという形になっていまして、ただし、1カ月当たり、たしか28時間か、そこまでだったと思います。これは国が決めているあれでして、だから、私どもの病院でも、そこまでは、28時間か29時間までは認めていますが、それ以上はできるだけしないようにということで、そういう指導はしております。

【木村委員】 それ以上した場合はどうなるんですか。

【竹田（総合医療センター理事長）】 それはないです。

【木村委員】 いや、その辺が問題になっていたのもあって。

【竹田（総合医療センター理事長）】 ですから、まず、原則として……。

【木村委員】 だから、そういう管理の体制になって、サービス残業なしであれば。

【竹田（総合医療センター理事長）】 こういうのは払っておるんですね。ですから、原則はそれはさせないと。今までは、昔はそれをさせておったんです、ずっと。残れとかと言っておったんです。残ってはいけないという。どうしても残る場合だけ、仕方がないという。非常に、原則はさせないということで今は統一して指導しております。

【木村委員】 今、その辺、過重労働とか非常に厳しくなっているの、環境に応じてきちっと管理する体制を充実させていただければいいと思うんですけど。

【豊田委員長】 その辺の医師の過重労働、これは、最近はやかましく言われるようになりましたけど、今まではそういうことはあまり考えて、配慮されずに、私どもの若いころはほんとうにひどいものでしたね。徹夜して患者さんの診療をして、翌日、また、何も寝ずに次の日、だーっと朝から晩まで働くわけですよ。それが、そういうのが医者だと思っていますから、患者さんのために赤ひげ的精神で一生懸命、身を粉にして働くのが医者だと思っていましたから、そういう勤務が当たり前だと思っていたんですよ。でも、やっぱりそういうのを続けていますと、研修医も過労死とか、そういう問題も生じてきました、最近はだんだんとそういうことに配慮せんといかんと、そういうことになってきたわけですが、東先生も大変な、若いころ、すごい生活をされていたと思いますが。

【東委員】 先ほど、木村先生が言われたように、かなり、医師が増えるということはそれだけ費用もかかるわけですけど、だから、医業収益を増やさなければいけないわけですよ。この中にも、手術の中で、内視鏡というか、鏡視下手術というのは点数が高いものですから、そういう鏡視下手術を増やしていこうというものもあるわけですけど。この地域はもともと高度急性期の医療が、47%ぐらいが外に出ているわけですね。流出型の医療圏なわけです。これを何とか、こういうふうに医師が増える、少なくとも新しい病院が

できたら、それは間違いないかもしれませんが、それまでも、医師、専門医が増えてくるわけですので、前倒しで、ちょっと古い病院かもしれないけれども、高度急性期を頑張っ
てやっていってもら。それが医業収益を、やっぱりあそこを上げないとなかなか医業
収益がそうそう上がっていかないんじゃないかと思しますので、この際、その辺もしっか
り力を入れていただきたいと思っております。

【豊田委員長】 ほか、委員の皆様方から何かございませんでしょうか。

それでは、ないようですので、次に、(2)の新病院整備事業の進捗状況について、ご報
告をお願いします。

どうぞ。

【藤田(新病院準備室室長)】 新病院準備室の藤田といいます。昨年10月の人事異動
に伴いまして、前任の久保にかわりまして就任いたしております。どうかよろしくお願
いいたします。

それでは、桑名市総合医療センター新病院整備事業の進捗状況についてご説明申し上げ
たいと思います。

配付させていただいております資料2をごらんください。

まず、1枚目のほうでございますが、現在、工事中の断面図となります。断面図の左側
が新入院棟(G棟)となっております。右手のほう为新外来棟(F棟)、今、建物が建っ
ておる、ちょうど皆様方からいいますとこちら側のほうで建てておる部分で、後からモデル
ルームのほうも見ていただく部分にはなるんです。

状況いたしましては、赤く点線でしてある部分がおおむね完了した部分でございます。
具体的には、まず、入院棟のほうでございますが、8階部分まで建て方のほうが完了いた
しまして、内装、外装、設備等を現在施工しておるところでございます。

右手のほうの新外来棟のほうでございますが、こちらのほうは最上階のほうまで建屋の
ほうが完了いたしまして、引き続き内装、設備工事を行っておるところでございます。最
上階まで終わりましたもので、4月に入りましてからタワークレーン等と解体していく予
定となっております。

今後、内装、外装を仕上げていくとともに、5月に入りましたら、この2つの建物を結
びます上空通路、絵ではわかりづらい、2層になるんですけれども、薄く線が引いてある
と思うんですけど、この部分、いわゆる市道の上の上空通路の工事に着手していく予定と
なっております。

なお、現在の進捗率は約53%となっております。予定どおり進んでおりまして、来年の1月末日の完成を予定しているところでございます。

冒頭にもございましたように、この後、外来棟の一部の1階部分のモデルルームを設置しておりますので、そちらをごらんいただくこととなっております。なお、モデルルームにつきましては、医師及び看護師の皆様方使い勝手などを検証してもらいまして、アンケート等を集計し、それらのご意見を反映させていく予定となっております。

2枚目のほうの全体工程表のほうを大体あわせてお話をさせていただきましたけれども、青の水色部分が現在終わったところでございまして、上部に記載していますG棟のほうにつきましましては、外装工事、残った地上の躯体工事、あと、設備工事、先ほど申し上げました上空通路の工事、あわせて、最終的に外構の工事を行っていく。下側の外来棟のF棟につきましても、外装、内装の仕上げを行いまして、外構等の仕上げを行っていったら、来年の1月末日に完成するという予定でございます。

簡単ですが、私からは以上でございます。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

それでは、委員の皆様方から進捗状況につきまして、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

どうぞ。

【東委員】 現在、駐車場がないわけですね。駐車場がゼロ。それで、来年の1月末で完成するとさっきお話がありましたけれども、その後は、1階、2階部分というんですか、駐車場に充てる部分というのはできることになるのでしょうか。

【藤田（新病院準備室室長）】 駐車場につきましては、ありましたように、1階、2階と、あと平面駐車場と近接する駐車場を合わせて213台を確保する予定となっております。

【東委員】 それはいつからです？

【藤田（新病院準備室室長）】 来年のオープン時ですね。

【東委員】 前倒しではできないわけですか？ 下の部分。

【藤田（新病院準備室室長）】 1階、2階の駐車場を使用するというところでございますか。

【東委員】 そうです。

【藤田（新病院準備室室長）】 引き渡し時点は1月末日ですもので、それから引越し

【宗近（総合医療センター理事）】 ありがとうございます。おっしゃられるとおりですが、今回つくってありますモデルルームというのは、マンションのモデルルームとは少し意味合いが違いまして、こういうふうな個室をつくる予定だけど、使う側、看護師さん、医師等が、使い勝手がどうだとか、位置関係、トイレの位置、それを職員に確認することを主な目的でつくってございますので、今回の今のモデルルームを一般市民の方に公開するということは考えておりません。しかしながら、実際の病院を地元医師会の先生方とか、それから市民の方に開院前に公開をしようと、期待をされているようでございますので、それは予定に入れております。

【豊田委員長】 それから、もっとPRをすればいいんじゃないかというご意見でしたが、どうでしょうか。

【黒田（保健福祉部理事）】 理事の黒田でございます。

木村委員のおっしゃるとおり、新しい病院のPRは必要かというふうに重々承知しております。その中であって、市の広報を利用しまして、間隔を置いて皆さんにしていきたいというふうにも思っておりますし、既に、せんだっての広報だったと思うんですけど、一度、掲載はさせていただいております。今後も継続的に何か節目、節目のところで広報させていただきたいというふうに思っておりますので、それで市民の方に周知されるというふうに思っておりますのでよろしく申し上げます。

【竹田（総合医療センター理事長）】 総合医療センターニュースというのを3カ月に1回出しているんですけども、そこでも、4月以降は新病院の機能のアナウンスをどんどん出していこうということで、今までも小刻みには出してございましたけれども、これからはもっと積極的にどんどん紙面を割いてやっていこうと、そういう計画をしております。

【木村委員】 そういう紙の媒体によるPRもあれなんですけど、現場の作業の邪魔にならない範囲で、休みのときとか、やっぱり希望者にはツアーで途中経過も見せてあげるとか、そういうことが今の、こういう形で赤字であっても将来こういうふうになってこうなるんですよということを、院長が直々に説明してあげるとかをすると、また、心証もよくなって、じゃ、開業後、2年、3年後を期待しようというあれになるんじゃないかなと思って、紙だけじゃなくてその辺もお願いしたいと思います。

【豊田委員長】 何かご検討、実行可能かどうかわかりませんが、ご検討をお願いしたいと思います。

ほか、よろしいでしょうか。

【竹田（総合医療センター理事長）】 済みません、もう一つ、追加資料、今、皆さんに工事の進捗状況をご説明いたしましたので。つい最近、決まったことですが、9階建ての右と左……。

【黒田（保健福祉部理事）】 先ほどの2枚目ですね。先ほどの2枚目。

【竹田（総合医療センター理事長）】 先ほどの2枚目、追加資料で、こういう横からの。

【黒田（保健福祉部理事）】 医者の方数の2枚目です。

【竹田（総合医療センター理事長）】 一応、こういう配置とベッド数の配分で行こうかという。一応、今、決まった案でありまして、これから多少変わるかもわかりませんが、一応、新入院棟ができますと、これはG棟ですが、ここに321床、それをこういう配分で行こうかということと、それから、その後、D棟を改修いたしますけれども、そこで79床をつくれますけれども、これがこういう形で配置していかうと、合わせて400床ということ。上から、脳卒中センターとか消化器センターとか循環器センターとか、そういったもの、センター化させるということと、あと、ICU、CCU、救急、この辺の重症の患者さんを対象とした病棟とか、あと、NICUと、小児の救急も始まりますので、こういった形の配置にしたいというふうに考えております。

以上でございます。

【豊田委員長】 東先生、先ほど、先生のおっしゃった重症の急性期の疾患を重点的に診るようにしたほうがいいんじゃないかというご意見でしたが、この病床、これはどう思われますか。ICU等の病床、救急病床、これで十分と思われるか、もうちょっと増やしたほうがいいと思われるかですね。

【東委員】 すぐにわかりにくいんですが、今、地域医療構想というのがありまして、この間、やっと三重県もそれが完成したんですが、今は機能病床ということ、そういう考え方がものすごく大きくて、高度急性期の患者さんの病棟というか、そういうふうに、その点数がすごく高いわけですよ、そういう人たち用。だから、収入的には40床の病床を消化器でも内科でも脳外科でも一般外科でも、とにかく手術が終わってすぐの1週間なり2週間の人を、各科どうでもいいからそこに集めると収入的にはいいわけなんですわ。だけど、これはおかしいでしょうって、僕もいつも県の人たち、厚労省の人に言っているんですけど、機能病床というのは、消化器なら、内科系、外科系もその病棟に入って手術した人、だんだん回復した人、退院するまでそこで行くのが、なれた看護師さんとかもスタッフもいるわけだから、それが機能病床じゃないですかと言っているんですけど、実際

は、お金ことから始まっているので、とにかく手のかかる、医療資源投入量というんですけど、その人に1日どのくらい医療的な手がかかるかというので、そういう人たちが入っている病棟、何%以上、何十%以上入っている病棟がこれだけのお金を毎日、基本入院料みたいな形で出しますよという形になってくるので。

そうなると、でかい病院で、1,000床ぐらいの病院だったら、外科系だけでも1つの病棟に高度急性期の人たちを入れられますよね。ところが400床ぐらいの病床だったら、高度急性期の人だけの病棟をつくるというか、その人たちが四、五十%入っているような病棟をつくるのが一番理想なんですけど、そういうのは無理ですよね。それで、ICUとか、そういう病棟でないと、こういう高度急性期の病床というのはとりにくいですよ、先生。その辺が、今の国が考えている考え方と現場とか乖離していますよね。これはおおい、そういうことが現場からいろいろ意見が出て変わっていくようにしないと、このままではやっぱり病院経営というのは難しくなるんじゃないかなと思ってまして、こういうベッドの配分というのも、ある程度、今後の流れを見ていかないと難しいんじゃないかなと思ったりします。

【豊田委員長】 どうぞ。

【竹田（総合医療センター理事長）】 東先生が言われるとおりでして、ICUとか、そういう特殊な病床を増やしますと、そこへ全部重症な患者を集めますと、ほかの病床がみんな比較的軽症な患者さんが集まることになって、そうすると、看護必要度が満たされません。看護必要度が25%満たされなくなりますので、そうすると、一遍に診療報酬が、収入が落ちてしまうと。だから、あんまりICUとかあの辺を増やしてもいけないというのがあれですね。そこでジレンマがあるんですね。

もう一つ、看護師の問題もあります。看護師がいないと、ICUとかその辺は十分、ベッド数を増やすことはできませんので、その2つと合わせて一応これぐらいの数字でとりあえずいこうかと。今後、各診療科の病床数の割合としてありますけれども、これは今、大学と一緒に、これは全部共通病床だと。あくまでもこれは1つの目安であって、あいてるところへどんどん入れていくという、それを来年度から、29年度からその習慣、共通病床という、そういう習慣をつけていって、例えば、整形外科のところへもどんどん内科の人もあいていけば入っていくということです。これは、昔やられたもので、それをやらないと稼働率は上がらないということで、それは平成29年度にはそういう習慣をつけていこうということで考えています。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

ほか、よろしいでしょうか。

それでは、次に、議事の（３）の平成２９年度評価委員会スケジュールにつきまして、事務局からご説明をお願いします。

【藤田（新病院準備室室長）】 資料３の平成２９年度評価委員会スケジュールについてのほうをごらんいただけますでしょうか。平成２９年度評価委員会スケジュールについて、１枚物の資料３のほうでございます。

まず、６月下旬から８月上旬にかけて、平成２８年度に係る業務の実績に関する評価、そして、平成２８年度財務諸表に対する意見聴取ということで、３回程度開催を予定しております。これにつきましては、それぞれ９月議会のほうに報告議案を提出するものでございます。そして、次に、１０月ごろに、今年度については中期計画の変更に対する意見聴取を開催したいと思っております。そして、平成３０年３月、今回と同様に、平成３０年度計画の報告というふうな形で開催を考えております。そして、上記とあわせて、あるいは随時ということで、新病院の整備事業の進捗管理についてのご報告をさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

何かご意見等はございませんでしょうか。委員の皆さんは、またよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、これで本日の議事は終わりということですが、ほかに何かよろしいでしょうか。

どうぞ。

【中澤委員】 東先生の駐車場の件なんですけど、実際２１０台って患者さんだけのあれですか。２１０台しか確保できないという形なんですけど、今、現状は。

【豊田委員長】 職員の分は……。

【中澤委員】 いや、職員はもっとたくさん要ると思いますけど、患者さんって２１０台で４００床か、それが全て車というわけじゃないんでしょうけど、実際、診療にお見えになる方もたくさんおみえになるので、各院と比べて増えているんですかね。僕も知らないもんで、こんな質問をして申しわけないんですけど。

【宗近（総合医療センター理事）】 ２１３台で、決して多くはないと思っております。

それで、また、周りの土地が整備されて増えていくんだらうと思うんですけど、ただ1つ、病院側として打つ手がございまして、午前、午後に分けた予約制をとると、213で回るかなということ。大学のほうが、大学はもっと厳しくて、予約した時間の1時間半前に、それ以上前に行くとカードが入らない仕組みまで取り入れておられます。それで駐車場が工事を今、大学もすごく少なくなっていますけど、やっと、全然余裕を持って回る状況。今、ほとんどの病院がそういう予約制をとりながら、お年寄りも、11時に予約をとっていても7時過ぎから来られているという。それをやると、駐車場が回転しませんので、なかなか、確かに少ないと思われるかもしれませんが、何とか回るのではないかな。理論上は回るのではないかなと思っております。

【豊田委員長】 工夫によって何とか回るような計算になったということでございますが。

ほか、よろしいでしょうか。

それでは、ないようですので、では、本日は以上とさせていただきます、あとは事務局のほうでお願いいたします。

【黒田(保健福祉部理事)】 本日、ご熱心なご議論をありがとうございました。この後、私ごとでございますけど、今回の人事異動によりまして、長島総合支所のほうに異動となりました。それで、私も、冒頭に豊田先生のほうがおっしゃられました、市民病院の独法化、そして民間病院との統合、そして病院建設と、ずっと10年あまり携わってまいりました。それが、来年にオープンする前に、そして、自分の役所経験も残すところあと1年というところで人事異動になったということは非常に残念だというふうに思っております。陰ながら見させていただくような格好になるというふうに思います。

それと、この評価委員会におかれましては、総合医療センターの監視機関としてこれからもずっと続けていただくこととなりますので、委員の皆様にはお力添えをひとつよろしくお願ひしたいというふうに思います。

それと、私と一緒にやってきました梅山補佐、これも同様に人事異動の対象になっております。それは、今回の人事異動先が同じ保健福祉部でございますので、何かとして力のかしていただけるのかなというふうに思っております。そして、私と梅山補佐が引き継いでいく者につきましては、私は部長のほうに引き継ぎます。そして、梅山補佐は藤井補佐のほうに引き継いでいきますので、今後ともひとつよろしくお願ひ申し上げます。

【事務局(黒川)】 本日は長時間にわたり、まことにありがとうございました。それで

は、以上をもちまして、平成28年度第4回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会を終了いたします。この後ですが、お時間のある委員の皆様には、新病院の病室、モデルルームへご案内をさせていただきますのでよろしくお願いたします。本日はどうもありがとうございました。

— 了 —